

真偽問題

正しいものは①、正しくないものは②にマークしなさい。

①、②以外を塗りつぶすと誤答になります。

- 問(1) 音名の呼び方で、「ロ」と「H」は同じ音である。
- 問(2) 短3度の補足音程は長6度である。
- 問(3) 同じ調号で示される長調と短調を、同名調という。
- 問(4) 古典派音楽と呼ばれる作曲家には、ハイドン、バルトーク、モーツァルト、ベートーヴェン等がいる。
- 問(5) ワルツは3拍子の楽曲であり、日本語の名称は、円舞曲である。
- 問(6) ファツィオリの生産国は、イタリアである。
- 問(7) ミュージックワイヤーの材質は、抗張力・耐久力に優れた炭素鋼である。
- 問(8) 響棒の役目の一つとして、響板が弦の圧力に耐えられるようにすることがある。
- 問(9) 駒は弦振動をすばやく伝えるために、材質は柔らかく、スプルースなどが使われる。
- 問(10) グランドピアノの連打性能は、アップライトピアノの約3倍である。
- 問(11) 音叉は、先端を削るとピッチは低くなる。
- 問(12) 37A付近では1Hzは4セントに相当する。
- 問(13) ピアノの弦の1本当当たりの張力は、平均すると90kgf程度である。
- 問(14) ピアノ弦の特性から、最高音域では半音の1/10ほど高めの音となる。
- 問(15) 1Aと85Aは7オクターブで、音程比は理想弦では1:128である。
- 問(16) 黒鍵の高さは、白鍵から10mmの高さに揃える。
- 問(17) バックチェックの左右調整は、バックチェックワイヤーの上下をそれぞれに曲げて調整する。
- 問(18) 働きが少ない原因が打弦距離(ハンマーストローク)にある場合は、打弦距離を広くする。
- 問(19) グランドピアノの鍵盤の深さ(あがき)が深くなると、ハンマー戻り(ドロップ)が少なくなる。
- 問(20) アップライトピアノのキャプスタンボタンを奥方向に調整すると、タッチが重くなる。
- 問(21) 断弦の修理をする場合、指定された番手の弦を使う。
- 問(22) ハンマーがスティックしている時は、ブライドルワイヤーをスティックが直るまで手前に引っ張る。
- 問(23) 白鍵上面(アクリル樹脂製)をはがすときは、アイロンで加熱する。
- 問(24) 膠(ニカワ)は植物由来で環境にやさしいため、近年見直されている接着剤である。
- 問(25) 自動演奏ピアノは、ピアノのタッチの特性上、MIDIデータによる記録・再生はできない。

多肢択一(3択)問題

各問から、適切なものを1つ選びなさい。2つ以上選ぶと誤答になります。

問(26) 40Cを楽譜で表すとき、正しいものを1つ選べ。

1. 高音部譜表(ト音記号の楽譜)で第3間
2. 高音部譜表(ト音記号の楽譜)で下第1線
3. 低音部譜表(ヘ音記号の楽譜)で第5線

問(27) ト長調の説明として、正しいものを1つ選べ。

1. 調号は、 \flat が1つである。
2. 平行調は、ト短調である。
3. 属音の音名は、「ニ」である。

問(28) 次の記述の中から、正しくないものを1つ選べ。

1. 残響時間は、部屋の環境によって影響される。
2. ピアノ演奏会で、残響時間は、聴衆者の数に全く影響されない。
3. 屋外でピアノ演奏した場合、あまり響かないと感じるのは、反響が少ないためである。

問(29) ピアノの発達史で、フレームの向上に関する年を1つ選べ。

1. 1840年
2. 1783年
3. 1802年

問(30) オーストリアが主な生産国となるピアノブランド名を1つ選べ。

1. スタインウェイアンドサンズ
2. ペトロフ
3. ベーゼンドルファー

問(31) 弦長について、正しいものを1つ選べ。

1. アグラフから駒までを、有効弦長という。
2. ベアリングからヒッチピンまでを、有効弦長という。
3. 最高音の有効弦長は、およそ10cmである。

問(32) チューニングピンについて、正しいものを1つ選べ。

1. 材質は鋳鉄である。
2. 通常直径6.9mmのものを用いるが、修理用として太いものがある。
3. 頭部の形状は、チューニングハンマーが入るように6角でテーパがとられている。

問(33) 響棒について、正しいものを1つ選べ。

1. 材質は、ブナやカエデが使われる。
2. 板目材が用いられる。
3. 役目の1つとして、響板全体に振動を伝えることがある。

問(34) 次の記述から、正しいものを1つ選べ。

1. アグラフは黄銅製で、弦振動の支点となる。
2. フレームの材質は鋼鉄で、支柱と合わせて張力の支えとなる。
3. ミュージックワイヤーの材質は炭素鋼で、高音ほど硬い炭素鋼を使用する。

問(35) 調律ピッチについて、正しいものを1つ選べ。

1. 日本では、49A を必ず 442Hz にしなければならない。
2. 音叉は環境の変化があっても全く影響されない。
3. ピッチが低いピアノを調律する場合は、調律が複数回必要になることもある。

問(36) 平均律割り振りについて、正しいものを1つ選べ。(基音は 37A。音域は、33F～45F とする。)

1. 33F-37A の唸りが基準より遅い場合、33F は低めにずれている。
2. 37A-41C#の唸りが基準より遅い場合、41C#は低めにずれている。
3. 37A-44E の唸りが純正の場合、44E は低めにずれている。

問(37) 音律に関する記述として、正しいものを1つ選べ。

1. 純正調長音階の主和音の短3度は、316 セントとなる。
2. 純正調長音階の主和音の長3度は、384 セントとなる。
3. 純正調長音階の完全5度は、498 セントである。

問(38) 振動数と弦の張力の関係で、正しいものを1つ選べ。

1. 振動数を 1.06 倍にするには、弦の張力を、約 1.12 倍にする必要がある。
2. 振動数を 1.06 倍にするには、弦の張力を、約 1.06 倍にする必要がある。
3. 振動数を 1.06 倍にするには、弦の張力を、約 1.03 倍にする必要がある。

問(39) 低音のオクターブ検査音程で用いる短3度:長6度について、正しいものを1つ選べ。

1. 短3度:長6度の唸りの回数が2:1となる場合、オクターブは正確である。
2. 短3度:長6度の唸りの回数が1:1となる場合、オクターブは正確である。
3. 短3度:長6度の唸りの回数は、低音になるほど長6度より短3度の回数が多くなる。

問(40) アップライトピアノのから直し(ロストモーション調整)の説明として、適切なものを1つ選べ。

1. 打弦距離(ハンマーストローク)を調整する工程である。
2. レギュレチングボタン(スクリュー)とウイペンヒールクロスの間隙を調整する工程である。
3. ジャック先端とバットスキンの間隙を調整する工程である。

問(41) グランドピアノのペダルに関する記述として、適切なものを選べ。

1. ソステヌートペダルを踏みこんでから、打鍵された音は延音される。
2. 左のペダルを踏むと、打弦距離(ハンマーストローク)が短縮される。
3. ダンパーペダルは、リフティングレールとダンパーレバーの間隙が2mm になるように調整する。

問(42) アクションの整調工程として、関連が一番深いものを選べ。

1. ハンマー接近(レットオフ)とレペティションスプリング調整
2. 鍵盤の深さ(あがき)とベッディングスクリュー(すべり金具)調整
3. ダンパーペダル調整と打弦距離(ハンマーストローク)

問(43) 1回の打鍵でハンマーが2度打ちする場合の、原因と考えられるものを1つ選べ。

1. 働が多い。
2. 働が少ない。
3. ペダル調整に不備が有る。

問(44) アップライトピアノのアクションの働を大きくする方法として、正しいものを1つ選べ。

1. 打弦距離(ハンマーストローク)を狭くする。
2. キャプスタンボタンを手前にする。
3. 鍵盤の深さ(あがき)を浅くする。

問(45) 断弦修理について、正しいものを1つ選べ。

1. 最後に弦をしごいて、張力を安定させる。
2. 弦をチューニングピンに巻き付ける量は、チューニングピンの高さを優先し、巻き付ける量を調整する。
3. 弦間隔を揃えるときは、打弦位置だけでなく、ベアリングとチューニングピンの間も揃える。

問(46) ネジが緩くなった時の対応として、適切なものを1つ選べ。

1. 木ネジの場合、ネジに接着剤を塗布してから締める。
2. 木ネジの場合、金槌で打ち込んでから締める。
3. アルミ製のセンターレールの場合、ネジをオーバーサイズに交換する。

問(47) ハンマースティックの修理について、正しいものを1つ選べ。

1. ハンマースティックには、センターピンとフレンジのトルクに起因するものの他に、木部の変形や異物の混入などが考えられる。
2. プレートのあるものは、プレートスクリューを緩めてスティックを直す。
3. プレートがない場合、センターピンを選ぶには、ブッシングクロスにセンターピンを合わせる。

問(48) アップライトピアノの鍵盤が下がったままになった場合の対処として、関連のあるものを1つ選べ。

1. 打弦距離(ハンマーストローク)を修正する。
2. 鍵盤のバランスホールを大きくする。
3. バットフレンジのスティックを点検する。

問(49) バットフレンジ関連の修理・調整で、適切なものを1つ選べ。

1. フレンジブッシングクロスは貼替を行う際は、材質が良質なクロスは中央部分を使用する。
2. バットスプリングの交換作業は、バットスプリングピンコード(バットスプリングコード)の交換を伴う。
3. 古いピアノでバットスプリングコード(フレنجコード)を交換する際は、連打性能を維持するためにコードを短めにする。

問(50) 消音型ピアノの点検・調整方法として、正しいものを1つ選べ。

1. 消音型のアップライトピアノのハンマー接近(レットオフ)は、生ピアノの調整寸法と異なる。
2. 消音型のアップライトピアノのダンパーペダル調整は、生ピアノの調整寸法と異なる。
3. 調律カーブは、電子音に合わせる必要がある。